

選択的プロゲステロン受容体修飾薬と避妊

北村 邦夫

Summary

わが国では、低用量経口避妊薬(oral contraceptives ; OC)の承認から16年、レボノルゲストレル(levonogestrel ; LNG)を成分とした緊急避妊法(emergency contraception ; EC)については4年が経過しているに過ぎない。一方、世界の研究者達は女性のQOL向上に大きな影響を及ぼす新しい避妊法の開発に余念がない。選択的プロゲステロン受容体修飾薬(selective progesterone receptor modulators ; SPRM)である ulipristal acetate (UPA) と mifepristone (MFP) を用いた避妊法の開発である。これらは「エストロゲンを含むしない避妊法」としても注目を集めている。本稿では、「SPRMと避妊」をテーマに最新知見をまとめた。

Key words

選択的プロゲステロン受容体修飾薬(SPRM)
ulipristal acetate(UPA)
mifepristone(MFP)
避妊法(contraception)
緊急避妊法(EC)

はじめに

選択的プロゲステロン受容体修飾薬(selective progesterone receptor modulators ; SPRM)は医療の世界においてさまざまな領域で使われるようになってきている。第1に緊急避妊法(emergency contraception ; EC)である。現在、mifepristone (MFP)と ulipristal acetate (UPA)が開発されている。ECとしてのMFPは、性交後120時間以内に10mg、UPAは30mgが投与されるが、わが国で2011年2月に承認、5月に発売された levonorgestrel (LNG)単剤(1回投与量1.5mg)よりも避妊効果が高い。第2に経口避妊薬としてのSPRMである。MFP 1日量2mgの投与方法で排卵を抑制できるが、長期間避妊法(long acting contraception ; LAC)としての可能性については研究途上にある。今のところ、膣リング(contraceptive vaginal ring ; CVR)などへの応用が進んでいる。第3に経口妊娠中絶薬である¹⁾。原則妊娠49日までにMFP 600mg (Day1)、その後Day2あるいはDay3にミソプロストール(プロスタグランジンE₁アナログ)を投与する方法である。そして第4は子宮筋腫の治療への適用である。SPRMを投与することで子宮筋腫を縮小させ、結果として出血量の減少を招いている。近年、世界的に注目を集めているSPRMであるが、本稿では「SPRMと避妊」をテーマに最新の知見をまとめることとした。

Kunio Kitamura

一般社団法人日本家族計画協会理事長